私はこの夏、八月の五日から七日にかけて広島に行つて、原爆について学んできました。公園や資料館を訪れたり、式典に参加したり、そこでしかできない貴重な体験ができました。その中でも特に印象に残ったことが二つあります。

一つ目は資料館です。資料館は本館と東館に分かれ、主に本館は被爆した当時の様子や遺品、東館は原子爆弾についての情報が展示してありました。特に私が衝撃を受けたのは本館の展示です。そこにはあまりにも酷い傷や、町の様子が写真や絵となっていくつも展示してありました。正直あまりにも悲惨なものすぎて、そのまま出口まで出てしまおうかと思うくらいでした。しかし、この展示は全て広島で本当に起こったことなのです。当時被爆した人にとってはこの光景が今ある現実だったと思うととても悲しくなりました。

しかし、資料館では悲しいことだけでなく、嬉しいこともありました。それは、私が展示を見ている時にふとすぐ近くで熱心に展示物の説明書きを読む白人男性の姿が目にとまったことです。日本中だけでなく世界中から広島への被爆について知ろうと人が来ているという事実が、自分も学びにきている立場ながらも、なんだか嬉しく思えました。

二つ目は式典での子どもたちの宣言です。式典は八月六日の午前八時から行われ、市長や県知事、岸田総理からのお話がありました。そんな中、子どもたちの宣言というプログラムでは、なんと広島の小学生在が平和のために自分たちができることを話してくれました。相手の気持ちを考えること、平和のために自分の力を使うこと、それが自分たちにできることだと物凄い人数の前で堂々と話す小学生を見て、私もせっかく貴重な機会をいただいて、広島まで学びに来たのだからできることを何でも良いから自分なりに探してみようと強く感じました。

実は今なお、たくさんさんの核兵器がこの世に存在しています。この問題に対して私が直接何かしようというのはきつと難しいでしょう。しかし、私が広島に行つて経験したこと、思ったことを書いたこの文を通じて、読んでくれた人に戦争や平和について考えてもらうことはできるかもしれません。また、将来、私が大人になったときに、この経験について次の世代に話すことができます。

戦争体験の風化が進んでも、私たちの世代またその次の世代は平和な時代を築いていかなければなりません。だから今、より多くの人に戦争や平和について考えてもらいたいです。

大切な人の笑顔を守り続けるために

新発田市立第一中学校三年 加藤 かとう ひまり

『みなさんにとって「平和」とは何ですか』。この言葉を聞いた時から、私は平和について考え始めました。

第二次世界大戦末期に、連合国のアメリカ合衆国によって一九四五年八月六日午前八時十五分の広島市と八月九日午前十一時〇二分の長崎市に合計二発の原子爆弾が投下されました。たった一発で両都市は言葉では表すことができない程の残酷で壊滅的な被害を受けました。一瞬にして尊い命は失われ、残された遺族や友達、そしてこの出来事を知った人々に大きなショックを与えました。

原子爆弾が落とされる前には「いつてきます」や「いつてらっしゃい」などの日常の何気ない平和な会話が交わされたことでしょう。しかし、いつも通りに愛する人が帰ってこない。そして二度と会うことができない。そんな経験を実際にした人がいるということを思うと、本当に胸が痛みます。その出来事を知ったからこそ、私は今、当たり前の日常を送れていることのありがたみと素晴らしさに気づくことができました。

今私たちが生きているということ。

明日があるということ。

それは限りなく奇跡に近いことです。

私たちにとっての平和とは、目の前にある心の底からの笑顔です。だから私は、大切な人の笑顔を守り続けるために自分の力を使っていきます。

祈りの集い

新発田市立猿橋中学校三年

谷田 智幸 たにた ともゆき

広島平和記念公園には、一つの像があります。原爆の子の像と呼ばれる、佐々木禎子さんをモデルとした像です。また、その周りには、何万羽もの折り鶴が収められています。

像の下に置かれた石碑には、「これは僕らの叫びです。これは私たちの祈りです。世界に平和を築くための」という碑文が刻まれました。原爆で亡くなったすべての子供のための慰霊碑であり、内部の鐘が鳴るたびに平和への強い思いを思い起こさせてくれました。周りには、世界中から送られた折り鶴が収められています。それらにもきっと、子供たちへの想いと、平和を願う祈りが込められていることでしょう。

私も、学校で作った千羽鶴を納めてきました。学校全体で作り上げた「祈り」を届けました。平和記念式典に、全校生徒で出席したことと同じだと思います。私は、この原爆の子の像は世界中の「祈り」が集まる尊い場所であり、世界恒久平和の要だと思いました。

今回の貴重な経験を我が校に持ち帰ることができるとても嬉しいです。だからこそ、学校の代表として見たこと、聞いたことを大切に生徒たちに話そうと思います。

しかし、今この時にも、ウクライナやロシアの戦争が続いています。また、ロシア側の核の威嚇など、核兵器の危機も迫っています。原子爆弾投下から七八年の今、平和への思いを一つにする時です。広島だけでなく、国全体で「ノーモアヒロシマ」を世界中に発信する必要がありますと感じました。そのためには、このような活動が全国の学校でもっと盛んになることで、実現へ一歩近づけるのではないのでしょうか。いつか、ヒロシマの心が世界に届いて、世界恒久平和が訪れるようになってほしいです。

私たちが出来ること

新発田市立東中学校三年 秋山 ゆりか

あきやま

八月六日、八時十五分に一発の原子爆弾が投下され、多くの人が亡くなりました。生き残った人々にも今もなお、身体と心に深い傷を与えたあの日から七十八年経った広島に行き、平和記念式典に参列しました。

今年には歴代過去最多の百十一カ国の代表者が訪れ、のべ五万人が参列しました。広島市長や岸田総理大臣、遺族代表の方の言葉を聞いて、強く胸を打たれました。中でも、広島市内の小学生二人による、平和への誓いが特に印象に残りました。平和への願いを世界に向けて堂々と語っている姿に感動しました。また、記念式典には日本人だけでなく、海外からの参列者も多くいました。世界中の多くの人々が被爆地である広島を訪れ、世界の平和を願っていることに感動し、平和の尊さをより強く感じる事ができました。

また、その前日には平和記念資料館を訪問しました。実際に資料館を訪れて、これまで抱いていた原爆への思いが覆されました。言葉に表せないほど悲惨な写真や絵、激しい閃光により焼き爛れた服や三輪車、そして、私が知らなかった被爆者たちの言葉の数々に衝撃を受けました。七十八年前の日本で本当に起こったことなのだと思えて実感しました。

世界では、今も紛争が続いています。平和への誓いで、「身近なところにもたくさん平和がある」、「みんなの笑顔のために自分の力を使う」という言葉がありました。紛争を続けている人たちは、みんなの笑顔のために自分の力を使っているのでしょうか。私たちにも平和のためにできることがあります。私は自分の行動を見つめ直し、自分の力をみんなの笑顔のために使えるように行動していきたいです。

広島に行つて

新発田市立川東中学校三年 佐藤 新

さとう あらた

私は8月の5、6、7日に広島に行つて平和について学びました。広島平和記念資料館に行ったとき、最初はここがどういふところかよく分かつていませんでした。そこで展示されている写真や被爆者の遺品を見たときに、私は物凄い衝撃を受けました。被爆者が写っている写真は、やけどを負った人や、治療を受けている人でした。大量の骸骨が写っている写真もありました。正直とても怖かったです。できれば二回目は見たくないと思うほどの恐怖でした。写真なので本当にこういうことがあったんだなとしっかり伝わりました。絵も展示されていましたが、絵はやはり色付きなのでより分かりやすく原爆の恐ろしさを感じました。展示物の衝撃に、途中で気持ち悪くなり、足早にその場を出ました。あの資料館は、原爆の威力やその被害について、深く知ることができました。あそこで見たものは、忘れることのできないものになったと思います。

二日目の平和記念式典では物凄い多くの人に参加していました。参加した国は一〇〇カ国以上で、これほど多くの国が平和を願っているんだなと思いました。その日は朝でも暑くて熱中症になりそうだと心配しましたが、色々対策されていたため無事に式を終えることができました。黙とうの時、私は被爆者に対する気持ちと平和であり続けるようにと一分間祈りました。途中でデモのような声が聞こえてきて、式典にもそういう声はあるのだなと思いました。

広島に行つて学んだことは沢山ありました。その中で、原爆が落とされたことは他の人にも伝えていかなければならないと思いました。今平和に生きていられるのは、あのことがあったから平和だということ伝えていければ良いなと思っています。

広島での経験

新発田市立七葉中学校三年 堀川 椋太

ほりかわ りょうた

八月六日、広島で行われる広島平和記念式典へ参加してきました。そこで私が印象に残ったことを一つ話そうと思います。

平和式典でのことです。小学六年生の二人が「平和への誓い」を二〇〇〇人以上の観客、各国の代表の方々の前で堂々と読み上げました。二人の誓いを聞きながら私は、自分も原爆や戦争について知り、何か行動を起こさなければいけないと考えさせられました。広島に生まれ、原爆について学び、被爆者の生の声を聞くなど理解を深めているであろう二人の言葉には、自分たちの代で核をなくしたいという強い決意と責任感を感じ、私の心に響きました。

原爆によって多くの人々の命、夢が失われました。その事実が変わらないけれど、この過ちを繰り返さないために今も平和の尊さを訴え続けている人々がいます。平和は「当たり前」にあるものではないのです。多くの人々の努力によって守られています。未来を生きっていく私たちはこれから何をすべきなのか考え、様々な人と考えを共有し、行動に移していくことが今ある「平和」を守っていくために必要だと深く考えさせられる経験となりました。

私はこの広島での三日間で戦争や平和について沢山の事を学ぶことができました。このような貴重な機会をいただけに本当に感謝しています。私はこれらの体験の中で特に二つのことが印象に残っています。

一つ目は八月六日に平和記念公園で行われた平和の集いです。ここでは一時間弱という短い時間でしたが、広島市市長を初め、内閣総理大臣や広島の子ども達など、平和を願う人やそれに向かって活動を行っている人達の思いを生で聞くことができ、多くのことを感じさせられました。会場には国内外から本当に沢山の人が訪れていて、改めてこの広島という場所の力と平和を願う人がまだこれほどいるんだという現実を実感しました。とても貴重な体験でした。

二つ目は原爆ドーム、平和資料館です。ここでは戦争の悲惨さや被爆者の方々の思いを知ることができました。展示されているものの中には被爆された方の詳しい情報や実際に被爆したときに身につけていたものなどもあり、少し体調も悪くなってしまいうくらい重く貴重な体験をすることができました。

私はこれらの体験から戦争について学ぶことができ、そして、平和についてやこれから私たちにできることは何なのか改めて考えることができました。なかなか私たち学生だけの力では世界や日本の平和に直接つなげられることは限られてくるかもしれないけれど、少しでもできることがあればしていきたいし、身の回りの平和からでも守っていければ良いなと思いました。そのためにもまずはこの戦争についてもしっかり学んで繋いでいき、私たち学生や子どもたちがこれからを作り、世界中の人が笑顔で平和に過ごせるようなれば良いなと思いました。

資料館に行った際には、一分程の動画で何があったのかを知る事ができました。たった一つの原因で広島が焼け野原になる映像を見て、出勤や登校中の人々を襲った原爆が今でも何十万発もあると考えると、いつまた広島のような被害が出るのか全く想像ができません。また、原爆が落ちた日から七十八年も経っていれば、当時よりも威力が上がっていると思うのでいち早く核のない世界を訪れるのを願っています。

また、今回の学習ではどうなってほしいか考えるだけでなく、自分に何ができるのかを考えながら学習を進めていました。そこで私は、核の無い世界を願うだけでなく、これからの社会を作っていく私達が今回学んだ貴重な体験を後世まで語り継いでいくことが大切だと分かりました。その第一歩として、豊浦中学校の生徒に私が学んだことを分かりやすく伝えていきたいです。

最後に今回の派遣学習で学び、実践していきたいと考えたことが三つあります。

一つ目は、「当たり前前の生活」があることへの感謝。
二つ目は、今後もっと正確なことを伝えられる人が少なくなっていくので、少しでも多くの人に自分が今回学んだことを伝えていくことの大切さ。

三つ目は、いつも優しく接してくれる家族や友達、先生がいることに感謝の気持ちを持つ。

この三つの考えを忘れないようにし、これからの日々を過ごしていきたいです。

あなたは、戦争や原爆の恐ろしさを知っているでしょうか。

私は広島市の平和学習に参加し、実際に原爆が投下された広島を訪れ、原爆の恐ろしさを学んできました。

広島市の街を見た時、本当にここに原爆が落とされたのか、と思うほどに綺麗でした。しかし、広島平和記念資料館や原爆ドームを見学し、原爆の恐ろしさを目にし、言葉を失いました。

資料館では、原爆の被害を受けた当時の広島の写真や、怪我や火傷を負った人々の写真、当時の衣服などが展示されていました。中でも印象に残ったものは、「亡くなった子を想う」という写真です。それは、女性が泣いている写真でした。その女性はきつと、原爆の被害を受け、子どもたちを亡くしたのでしょう。この写真から私は、戦争や原爆は、当時被害に遭った方々だけでなく、遺族の方々や今を生きる私たちの心に大きな傷を残す残酷なものなのだということを学ぶことができました。

世界では今も、戦争が続いている国がいくつもあります。

戦争が続いても、良いことなんか一つもありません。それを伝えていかなければならないのは、戦争や原爆による被害を受け、辛く苦しい経験をした日本です。私たちが住んでいる新潟も、長岡空襲などの戦争の被害を受けています。しかし、日本で戦争が無くなった今、戦争や原爆の恐ろしさを知っている人は減少していると思います。

だから私は、戦争や原爆の恐ろしさや、もう二度と戦争をしてはいけないということをやより多くの人に伝えていきます。そして今、平和な日常を過ごすことができていることに感謝し、自分の周りにいる人を大切にしていきます。そして、これからも平和への道を考えていきます。一人一人が意識することで平和への可能性は広がります。みなさんも、平和について、もう一度考えてみましょう。

一九四五年八月六日、広島県に原爆「リトルボーイ」が投下されました。

僕は、令和五年八月五、六、七日の三日間広島に行き、原爆ドームや資料館など、沢山の場所を見学しました。資料館には、当時、大破し全焼した建物の写真や焼け焦げた弁当箱の展示品、被爆者の写真やメッセージなどがありました。体の皮膚に着物の柄が焼け写ったり、骨が発掘されたり、今では考えられないことばかりで、見ていることが辛かったです。ですが、現在の広島県は緑がたくさんあって綺麗でした。当時の写真と見比べると目を疑うほど違いました。二度と残酷な景色を見ることがないように、戦争は無くなってほしいと改めて思いました。

僕は三日間の広島県での貴重な体験は、一生記憶に残し、将来のために生かせたら良いなと思いました。平和で安定した世界であってほしいです。